

輸入額に於て明治二十八年以後の三ヶ年と明治三十八年以後三ヶ年を比較するに、十年間に約三倍の増進をなし又明治三十四年以後の三ヶ年と明治四十四年以後の三ヶ年を比較するに同しく十年間に約三倍強の増進をなせるを以て、我國十年間の鐵輸入の増進は三倍強となるの觀あり、然れとも其輸入は日露戰爭前後に於て著しき變調を來たし戰前明治三十四年以後の三年間の鐵類輸入額は、一ヶ年平均二千萬圓餘なりしか戰後の明治三十八年以後四十年に至る三年間の平均、一ヶ年の輸入額は四千二百萬圓餘に激増し急激の増進をなせるを以て、同戰爭は實に我國鐵類輸入に於て一大革命を劃せるものと見るを得へし、而して同戰爭前迄は多くも二千萬圓に過ぎざりし鐵類輸入か同戰爭後一躍四千萬圓に激増したるは、前に述べたる如く戰爭は我國の鐵輸入を速進したる一大動機なるを以て、此戰爭の前後に跨りたる對照を以て將來の鐵輸入の趨勢を卜するは妥當ならず、從て同戰後に於ける増加の割合を以て今後の輸入額を卜するを尤も當を得たるものとす、明治三十八年より同四十年に至る三ヶ年に於ける平均一ヶ年の鐵類輸入額は前述の如く約四千二百五十萬圓にして、夫れより六年後の明治四十四年以後の三ヶ年に於ける平均一ヶ年の輸入額は六千五百四十萬圓餘となり、其増加の割合は約一倍半強に該當するを以て之れを十ヶ年に換算するときは二倍半強となるを以て、我國の鐵輸入か今後も此割を以て増進するものとせば今後十年後、即ち大正十二年には輸入額實に一億七千萬圓餘に達する理なり。

前段に於て述べたる輸入鐵類と稱するは、銑鐵、鋼材其他簡單なる加工品に過ぎざるを以て、此外機械類の形に於て輸入せらるゝものを合すれば正味鐵鋼材としての輸入額のみにては同年度に於て二億萬圓の巨額に達する理なり。

五、我國今後の鐵鋼製産力

已に述べたる如く、今後鐵鋼材の需用は其輸入と相俟て逐年増加すべきは明かにして、殊に近時歐

16 洲戦争のため英國に於ては輸出を抑止するの傾向あり、米國又鐵類賣止めを聲言せる爲め益々我國自給の急を認め、製鐵所第三期擴張は正に實施せられんとす該計畫によれば大正十年を以て完了し、其の曉には民間の供給と合して約八十萬噸の生産を得べく、近く滿鮮に於ける一二製鐵事業の開始甚た意を強くするに足るも、年と共に其需用の増加するを思は、今後尙民間に於ける急激の發展を見るにあらざれば、依然大部は海外より供給を仰ぐの外途なからん。

本邦著名工場(二三の)に於ける銑鐵鋼鐵一ヶ年の使用數量大約左の如し。

一、鐵道院(大正三年度)

鋼	材	料	一四、五一四 _噸	一、三六五、四三〇 _噸
銑	鐵	一、八五三	八六、一七六	
軌	條	三〇、〇一八	二、一四、六、二九七	

二、川崎造船所(大正四年度)

鋼	材	料	五二、〇〇〇 _噸
此中	一〇九〇、製鐵所製品	三五九〇、英國製品	
五五九〇、米國製品	銑鐵	一〇〇〇〇 _噸	

三、三菱造船所(長崎)

銑	鐵	五〇〇〇—六〇〇〇 _噸	
鋼	鐵	二〇〇〇〇噸以上	
鍛	成	品	四〇〇〇—六〇〇〇噸(主に英國品)
内三〇〇〇噸ガットセリ、其他は漢陽、レットカー等			

四、浦賀船渠會社

鋼 材 料

大正三年一月より十二月に至る一年分 一八八二噸

大正四年一月より同十一月に至る十一ヶ月 二〇一〇四噸

但し大正四年度分は新船材料在庫品其他を含む

銑 鐵

大正三年度
内地品 二〇〇噸
外國品 二〇〇

内地
釜石 輪西
栗木澤 本溪湖

大正四年度 内地品 五〇〇噸

外國品 三〇〇噸

外國製
レガトガ
ガレット
クレブリ
ランド

五、室蘭製鋼所

銑 鐵

ヘマタイト銑 一〇、〇〇〇噸

可鍛銑 四、〇〇〇

其他 二、〇〇〇
一六、〇〇〇噸

六、陸軍

銑 鐵 約一〇、〇〇〇噸

鋼 鐵 一五、〇〇〇

七、海軍

銑 鐵 三〇、〇〇〇噸

鋼 鐵 二〇、〇〇〇位

以上